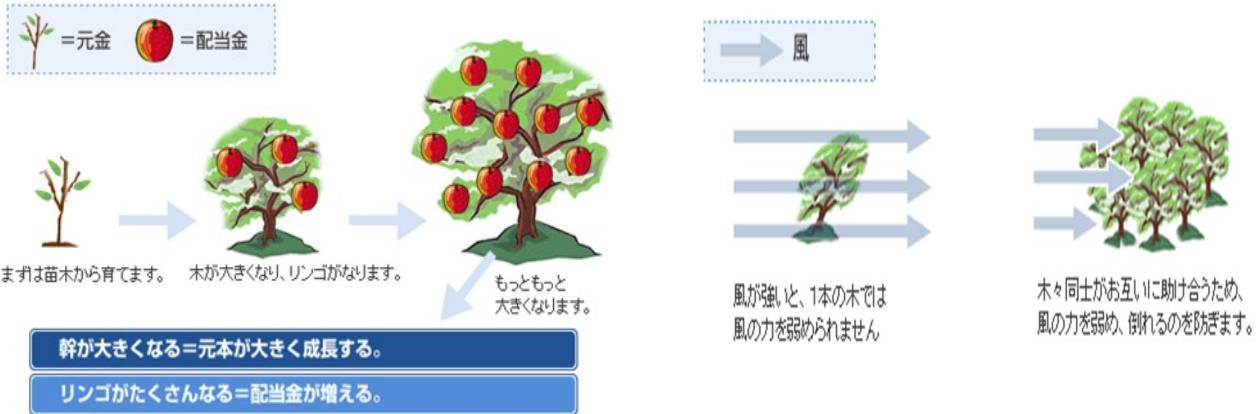


ATTENTION

投資はむずかしくも、危なくもない



この絵は当社ホームページに掲載されているものです。株式投資をりんごの木を育てることに擬えています。まずは苗木から育てます。最初は小さくて頼りない苗木も、丁寧に手塩をかけて育てれば年月を経てたくましく成長していきます。やがて立派なリンゴの木となり、幹も太く力強く成長するでしょう。リンゴの果実がなるのも楽しみです。ノーベル賞を受賞したサミュエルソンもこういっています。「お金の運用は、草木を育てるように。」これは、株式投資の長期の臨み方をいっています。短期投資のやり方で、木を途中で切ってしまうことのもったいなさ、愚かさがよくわかります。

そして右の図。強風が吹いたときに、一本の木、たくさんの木の、どちらの木が倒れる可能性が低いでしょう。たくさん木があれば、互いに風を防ぐ役割を果たし、どの木も倒れる可能性が低いです。大切なお金を一本の木だけに賭けるのは、あまりにも危険ですし、回りがすくすく育つ環境にあるようには見えません。それよりたくさんの木があるほうに投資した方が危険も少なく、すくすく伸びていくことでしょう。これは、分散投資の効果をいっています。こう見ますと、投資はむずかしくなかったり、危なかったりするものではなく、正しく地道にやれば、必ず大きく報われるものなのです。

OPINION

韓国民が怒るのは当然！朴大統領と友人の関係

韓国朴大統領と友人の崔順実との長年の隠された関係には、驚きました。韓国大統領の権限が非常に大きい中で、いわば人形のように大統領が操られていたというのですから、韓国人でなくても、背筋の凍る思いです。大統領就任後3年9ヵ月も、その状態が続いていたわけです。しかも、この崔という人物。その姿を写真に撮られることもなく、朴大統領が国家運営をする間、ずっとまさに影の実力者だったのです。これでは、韓国民が長い間だまされていたわけで、100万人を超える抗議デモをする気持ちがよくわかります。しかも、政治の素人の友人のアドバイスで、日本にも絡む外交まで口出ししていたとの報道もあります。たとえば、日本との会談には、服やその色(たとえば勝負のときの色)まで決めて、さらに安倍首相から問いかけられても「笑顔を浮かべるな、返答も冷淡にすべきだ。」とまで踏み込んでアドバイスしていたという話も聞きます。この友人、崔順実は、周囲に「あまりにも頻りに朴大統領から助言を求められたりするので、この頃うんざりしている。」とまでもらしていたとのこと。このたび朴大統領は、国会による弾劾手続きが実現する運びとなり、国民の強い怒りに抗しきれず、辞任を表明しましたが、当然の決断でしょう。

大統領の権限が強い中で青瓦台の奥の院に入ると、中が見えにくく外部の監視機能が働かず、親族や取り巻きを巻き込んださまざまな利権や汚職が生まれてくる土壤がある感を持ちます。

MARKET

(11月末)	(前月末比)
日経平均	
18,308.48円	+883.46円 (+5.1%)
NYダウ	
19,123.58ドル	+981.16ドル (+5.4%)
米ドル	
114.50円	+9.65円 (+9.2%)

今月の言葉：

横道はたくさんありますが、それらはみな広い道です。正しい道はまっすぐ狭いので、すぐに見分けることができます。

『天路歷程』ジョン・バニヤン

日米企業の事業構造改革の際立った違い(1)-米国企業のケース

日米企業の事業構造改革を見ていると、その違いの大きさに目を見張ります。日本企業の凋落の原因が、両者の比較から浮き彫りになってきます。そして日本企業が巻き返せる方策が見えてくる感があります。そこで、今回はまず米国企業の事業構造改革の一端を見てみましょう。

IBMは創業105年のIT企業ですが、1980年代にメインフレームが時代遅れになり、90年代にハードからソフトウェア、サービス主体の事業構造への転換を決断、さらにソリューション重視のワンストップサービスを拡大し、ハードの売上は2000年43%から2015年に9%まで落ちました。現在はクラウド、ビッグデータ、アナリティック、ソーシャル・ビジネス、セキュリティを「戦略的重点事業」として全社挙げて取り組み、その活動はすさまじいものがあります。

マイクロソフトは、パソコンのOSやオフィスなどのPCソフトが主要な収益源だったため、スマホなどのモバイル端末の台頭で事業環境が変化し、2010年代は鳴かず飛ばずの状況が続きました。その後新CEOの元、Azureなどクラウドサービスを主力とする事業構造改革を進め、それが奏功し、来期(18/6)は過去最高益が期待されています。また人工知能(AI)の開発レースでも先頭集団の一角を占めて、将来の収益源確保にいち早く手を打っています。その変容振りは株価に現われ、ここに来てITバブル時を上回って史上最高値となっています。

インテルは、PC向けMPUでは世界シェア80%と圧倒的で、いまでも25.3%と高い利益率を誇るのですが、スマホなどモバイル端末が普及し始めたことで従来の成長がむずかしくなったと判断し、クラウド構築用データセンター向け製品に注力。その利益率が49%と高いこともあり、今期(2016/12)は1株利益で過去最高が予想される状況です。

これら3社はいずれもダウ採用銘柄の超優良企業ですが、その地位を保つのは容易ではありません。グーグル、アマゾン、フェイスブックなど新興企業がどんどん出現してくるのが米国の特徴です。そのなかでいかに生き延び、成長し続けていくか。これは困難を極めるタスクですが、米国企業の経営者は、果敢に事業構造改革を推し進めます。その特徴は、収益がしっかり出ている間に先手、先手で大胆に手を打っていくこと。バフェットも多大の影響を受けた成長株投資の大家、フィッシャーは投資の着目点として、次のことを言っています。「現在の主力製品群の成長性がほぼピークに達したと見られるとき、経営者が売上をさらに伸ばせる製品や製法を開発しようとする決断力を持っているか。」

超優良企業のIBM、マイクロソフト、インテルでさえ、新たに出現してくる競争相手に勝って成長し続けるには、このような不断の改革努力が必要なのです。今回はこれら米国企業と日本企業を比較し、日本企業の課題と解決策を示しましょう。

SEMINAR

まかせて安心、資産運用のホームドクター

- 大切なお金を間違いない方法で運用しているのか、心配になることはありませんか。
- 退職後のセカンドライフを、お金の心配なく、ゆとりを持ってお過ごしですか。
- 仕事が忙しくて、なかなか運用まで手が回らないということはありませんか。
- 銀行や証券会社が勧めるままに、株や投資信託を購入していませんか。

金融商品の中身や手数料がどうなっているか、きちんと把握していますか。びとうファイナンシャルサービスは、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーです。その強みを生かし、お客様に、客観的で、公正・中立なアドバイスを提供しています。手数料が高く売りやすい商品をお客様に勧めるのではなく、お客様にもっとも適した金融商品やお客様にベストのアドバイスを提供しています。

びとうファイナンシャルサービスは、お客様の目標や夢の実現のため、30年を超える長い経験と深い専門知識、高い倫理観をもとに、お客様の利益のみに目を向けたサービスを提供しています。たとえるなら、多くのお客様の人生という航海で、無事に目的地に到着する大型客船であり、いつもお客様の資産運用という面で健康管理をするホームドクターです。



びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ!

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス株式会社
代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386
携帯：070-5567-3311

FAX: 050-3156-1072
電子メール: info@bfsc.jp